



## 長崎県、長崎市に二世の要請書を提出！

「長崎被災協・被爆二世の会・長崎」は長崎原爆被災者協議会とともに12月20日、長崎市役所と長崎県庁を訪れ、被爆二世の実態調査や健康診断の充実などを求める要望書を提出しました。

被災協の谷口会長は「今、二世の会は九州でも次々と発足し、被爆者の運動を支え、継承しようとしている。行政は被爆者と同様に二世の運動に協力を願いたい。」と挨拶しました。山田事務局長は「被爆地長崎市の行政として心を配り、他県に先駆けて実施させていくべきだ。行政、被爆者団体、二世の会、一緒になってやって国を動かそう。国は今、新しい戦争作りを準備しているように私たちには見える。あの戦争は何だったのかと言いたい。それを知らせるためにも、この二世施策のことで国を動かしていこう。」と述べました。

長崎市は「本来、二世施策は国の責任において実施されるべきものであり、まず実態調査が必要と我々も考え、国に要望している。これからもはっきり要望したい。今年度は二世健診の中に有料ではあるが、肺がん、大腸ガン検診を入れた。他県からも注目されている。まだ実施したばかりで人数としてあまり成果は上がっていないが、引き続き、充実した健診にしていきたい。」と述べました。（野瀬・原爆被爆対策部長、他3名）

長崎県は「八者協（※）で二世施策の要望を今後とも国へ一生懸命訴えていきたい。実態調査は放射線影響研究所が平成12年から7年間、影響調査をおこない、平成19年に報告が出された。今後引き続き調査が必要とされ、平成22年11月に行われている。被爆者の施策は援護法の中で決められているので、二世手帳についても国の責任で行うべきで、県がすることには限界がある。八者協でさらに進めるようにしていきたい。」と述べました。（増井・原爆被爆者援護課長、他2名）※八者協とは、広島・長崎原爆被爆者援護対策促進協議会の略。

二世の会からは「実態調査も県市一緒になってしっかりしたものをつくってほしい。それが世界に訴えるものになる。実態こそが科学的知見だ。放影研が行っている被爆二世の調査は限られた少数のもので実態に即していない。自治体独自の調査をすべき。」と要望しました。また、公的な証明書として「被爆二世手帳」を交付する制度の創設や、交付者への援護策充実などを求めました。（佐藤会長、岡本副会長、柿田事務局長、堀、佐藤澄人、森会長（二世の会・諫早））

佐藤会長は「二世の会の活動を知ってもらいたい。核兵器廃絶運動、70周年の取り組みなど行政に協力したい。これからも二世の要望を続けていく。」と述べました。

次頁に、長崎市長からの回答を掲載しています。



長 根 第 5 9 5 号

平成26年1月30日

財団法人 長崎原爆被災者協議会  
会長 谷口 敏博 様  
長崎被災協・被爆二世の会・長崎  
会長 佐藤 直子 様



長崎市長 田上 富久  
(市民局原爆被爆対策部協議課)

被爆二世に対する施策等実施のお願いについて (回答)

1. 被爆二世に対して、被爆者に準じた援護施策を実施すること

(1) 「被爆二世に関する実態調査をすみやかに実施すること」について  
(回答)

被爆二世に対して援護施策を実施するためには、まずは被爆二世の実数把握等が必要であると考えています。しかしながら被爆二世の方々には広島、長崎に限らず、全国におられることから、全国規模の調査が必要で、

狭いままして実態調査を国において実施していただくよう、現在も広島・長崎原爆被爆者援護対策促進協議会（以下、「八者協」という。）及び長崎原子爆弾被爆者援護強化対策協議会（以下、「新援協」という。）にて国に要望しているところであり、その実現に向けて努力したいと考えております。

(2) 「希望する二世に対して、被爆二世手帳を発行すること」について  
(回答)

被爆二世手帳の交付については、被爆者援護法には被爆二世に対する援護の適用がないことから、被爆二世手帳の交付は困難と考えます。

(3) 「(2)の手帳所持者ががん検診など健康管理と治癒・療養を国の責任で行うこと」について  
(回答)

被爆二世のがん検診につきましては、被爆二世が、がんに対する不安を抱く年齢になってきていることから、がん検診を含む健康診断内容のより一層の充実を図っていただくよう、「八者協」及び「新援協」にて国に要望しているところです。

また、治癒・療養については、「被爆者援護法」の適用がない状況での国の公的負担は現時点では困難と考えます。

被爆二世に対する援護施策の実現のためには原爆放射線の身体的及び遺伝的影響に際する科学的知見が必要であることから、昨年「長崎市原子爆弾放射線影響研究会」を設置いたしました。今後、研究会の中で専門的見地からの情報収集及び意見交換を進めていただく中で、新しい知見につなげていきたいと考えております。

なお、有益な情報が出た場合は、長崎大学などの研究機関に検証を委託することを想定しており、検証の結果、被爆二世に対する援護施策の推進につながる取組となりうると判断した場合は、国に対し強く要望していきいたいと考えております。

2. 「国に対しても被爆地、長崎市の行政の要望としてお伝えいただくこと」について  
(回答)

長崎市は被爆者援護に取り組み中で、被爆者や被爆二世のみならず高り訴うことを基本姿勢としており、これまでも「八者協」及び「新援協」の要望の中で、被爆二世の援護について、項目を設け要望してきたところですが、

今後とも要望事項の実現に向けて努力を重ねてまいりたいと考えております。

---

# 貴重な被爆体験の、聞き取りを行いました。

---

12月28日と1月28日に、2名の方の被爆体験聞き取りを行いました。

それぞれの感想を掲載します。



## ・鈴木禮子さんについて

12月28日に、鈴木禮子さん（82歳）の被爆体験聞き取りを、田平、堀の2名で行いました。

初めての聞き取りで不慣れなため、思うような質問ができませんでしたが、鈴木さんが気さくに、世間話も絡めながら、当時の生活や被爆したことを話して下さいました。

鈴木さんは、西彼長与町で14歳の時に被爆し、その後市内の親類の家へ行き、入市被爆も経験されています。

「戦争がなかったら、音楽学校へ行ったかもしれない……」その言葉に、将来の夢さえ自由にならない、当時の情勢を伺い知ることができました。被爆者の方は、私達が想像できない程の辛い体験をしています。そして辛い中にも、二度とこのような悲劇を繰り返さないために被爆体験を語って下さいます。

私達は、被爆者の方の思いを汲み取り、多くの人に伝えなければいけないと感じました。聞き取り作業は大変な労力が必要です。被爆者が高齢化し、急がなければならない作業です。

二世の会の活動として、少しでも多くの体験談の聞き取りが重要だと感じました。

## ・内田保信さんについて

1月28日に、副会長の岡本副会長（夫婦で参加）、赤水の3名で、内田保信さん（85歳）の被爆体験談聞き取りを行いました。

内田さんは現在、戸町にある施設で、奥様と一緒に過ごされています。

内田さんの奥様（ミキエさん）も被爆者で、同席されて、お二人から様々な体験を伺うことができました。

戦時中～原爆投下時～戦後の話・原爆投下時に一緒にいた友人が、その晩に息を引き取ったこと、結婚して子供さんが産まれた頃（8ヶ月の早産だった）高熱が40日続いたことなど…。

内田さんは、原爆投下時に負った左腕の傷も見せて下さいました。今でも、左腕はあまり上がらないそうです。

時間にして、約1時間40分。二世への想いや核兵器廃絶について熱く語って下さり、特定秘密保護法を撤廃してほしいということも、涙ながらに話して下さいました。

「今日は来てくれてありがとう。私たちの話を聞いてくれて嬉しかった」と、握手をして帰って来ました。

# パネル展、平和コンサートは大盛況！



11月30日・12月1日の2日間、長崎被災協2階会議室と1階被爆者の店前広場において「原爆と人間」写真パネル展&平和音楽ライブを行いました。

時期的に寒さと天気を心配しましたが、2日間とも良い天気に恵まれ約200名の来場者がありました。

今回の写真パネル展では、1日目に、岡本副会長のギター

演奏をバックに会員の石川、田平、佐藤会長による被爆体験記の朗読会を開きました。近隣の学童の児童たち約30名が来場し、熱心に耳を傾けてくれました。また、観光客の方の中には、涙する方もいらっしゃいました。



平和音楽ライブでは、1日目に、ペルーから来日しているミュージシャン“インカニャン”をゲストに迎え、3回のステージを行いました。遙か南米アンデスより、国境を越え、言葉を越え、心に響く悠久のハーモニー「folklore」を、『平和、愛、世界へ向かって』をテーマに素晴らしい演奏を聴かせてくれました。『平和な世界を！』という思いを私達二世の会と分かち合い、いろいろな国の観光客の方々と一緒に踊ったり楽しい時間を過ごし、写真パネル展への集客に大きく貢献してくれました。



2日目には、夏のライブに続いて地元ミュージシャンによる音楽ライブを行いました。岡本副会長夫妻による“はむingはーと”など10バンドが遠くは佐賀から参加し、ライブを盛り上げてくれました。平和公園に訪

れた観光客の方々が、ライブの演奏に寄って来られ、写真展へ足を運ぶ様子も見られました。

次回パネル展は、来年の夏を予定しています。また新たな企画を考えていますので、ぜひたくさんの方の会員の方のお手伝いをよろしくお願い致します。



写真パネル展に来られた方に、アンケートを記述して頂きました。  
その中より、感想を抜粋して掲載します。

○「今日、原爆資料館やこの写真パネル展を訪れることができ、知らなかった悲劇を知りました。原爆や戦争の恐ろしさ知るとは、後世に伝えるのに必要なことなので、風化させないような努力を自分自身でしていきたいです。」(24歳・男性・島根県)

○「音楽とのコラボという事で来ました。別の角度から多くの人々が興味をもって参加してくれる事を願います。若い時はさほど関心もうすかったが、年令を重ねる事に、思いも多くなりました。」(60歳・男性・長崎県)

○「だんだん被爆者も減ってきて原爆を知っている人達が少なくなるなか、こうやって情報を発信して行くことはすごくいいと思います。」(男性・長崎県)

○「インカニヤンのライブをききたいと思って大村から来ました。平和だからこそ美しい音楽を楽しめるのだなあと思いつつ聞いておりました。」(44歳・女性・長崎県)

○「私達夫婦の母達も被爆者で、この10年以内に二人とも亡くなりました。子供のころから原爆を身近に感じています。二世の会の皆さん、今後も活動頑張ってください。私達も孫達に伝えていきます。」(56歳・男性・長崎県)

○「平和、愛というテーマに相通ずるものがあり、心を揺さぶられる音楽を聞く事が出来て良かったです。毎年恒例となり、愛と平和が広まってゆくことを願います。」(50歳・女性・長崎県)

○「再確認すると共に、命の大切さ、平和に対する思いが深まりました。被爆国として、これからの世界の平和を訴え続けていけばいいと思いました。」(20歳・女性・大阪)

○「いろんな方が、原爆を伝えているということは、それだけこの日本の長崎に悲劇が起きたということなんですね。私自身は戦争は体験しておらず、映像や話でしか分かりませんが、音楽の力で軽減していけたら、すごくいいなと思います。」(27歳・女性・長崎県)

○「戦争も原発事故も、何でもないふつうの毎日の幸せを奪ってしまいます。音楽がある、出来る幸せを意識しなければ・・・、と思います。」(44歳・女性・長崎県)

○「音楽は祈りのような気持ちが込められて良いことだと思います。」(56歳・女性・長崎県)

○「写真やそのコメントが分かりやすく、原爆の事が少しでも分かったと思います。原爆0の世の中になるよう願っています。」(22歳・男性・大分県)

<<海外の方も来て頂きました。そのアンケートを掲載します。>>

○「展示はたいへん良かったです。私達は、このようなことが再び起きないように、全てを知る必要があると思いました。」(50代・男性・アメリカ)

○「このような写真展は、地球上全ての人々のために、是非おこなってほしいです。広島と長崎で起きた、原爆の被害と破壊を知らねばならないと思いました。」(20代・男性・ネパール)

○「とても良かったです。歴史と原爆の出来事を知ることは重要だと思います。」(20代・女性・アメリカ)

○「とても良い展示だと思いました。さまざまな所で開催してほしいです。私は、世界中どこでも人々は平和を望んでいると思います。」(20代・男性・ネパール)

# 被爆遺構碑めぐり、開催！



11月10日、平和案内人でもあり被爆者の田中安次郎さん（71才、新中川町にて被爆）を案内人に招き、原爆落下中心地から白山墓地まで、被爆遺構巡りを行いました。

今回のコースは、長崎さるくコースの「アンゼラスの鐘の丘を訪ねて～原爆落下中心地・平和公園から浦上天主堂～」（約2.7Km）の前半で、原爆落下中心地公園→旧松山防空壕跡→平和公園→山里小学校→白山墓地でした。

原爆落下中心地公園で待ち合わせを行い、被爆遺構巡りがスタートしました。

中心碑に黙祷を捧げ、旧浦上天主堂の外壁、被爆当時の地層を見学しました。地層には、食器や生活雑貨など、当時の普通の生活が、そのまま土に埋まっています。

ここには、一瞬で生活が消えてしまった恐ろしさを感じました。

平和公園脇の旧松山防空壕跡は、現在は整備され、掲示板や照明もあり、とても見やすくなっています。

穴を掘っただけのこの防空壕で、原爆にあった方々の叫びが聞こえてきそうでした。

平和公園では、平和の泉、長崎刑務所浦上刑務支所遺壁、平和記念像などを見学しました。

何度も来ている平和公園ですが、田中さんの解説で新しい見方をする事ができました。

山里小学校では、今回一番多く時間をかけ、あの子らの碑、原爆資料館、防空壕を見学しました。校内に残る数々の碑を、丁寧に説明して頂きました。68年経過しても、あの子らの碑に、次々と捧げられるたくさんの千羽鶴は、人々の平和への願いを表していました。

併設されている原爆資料館では、貴重な資料を見る事が出来ました。

白山墓地は、さるくコースの主要遺構ではありませんが、田中さんが、是非二世の皆さんに見てほしいという事で見学しました。ここは一般墓地ですので、静かに見学を行いました。伝統的なキリシタン墓地の1つであるこの墓地には、墓碑に刻まれた没年月日が8月9日という墓碑が





多くあり、一家全てが8月9日という墓碑もありました。8月9日が特別な日だという事をあらためて感じました。

ここまでで、さるくコースとしては半分の60分なのですが、田中さんの丁寧な説明と見学で、3時間も経ってしまい、やむなく今回の被爆遺構巡りは終了しました。

掲示板を読むだけでは解らない内容を、田中さんから直接聞く事が出来、とても充実した被爆遺構巡りでした。

残りのルートも是非案内を！と、お願いしました。



---

## 福岡での学習・交流会に参加してきました。

---



2月1日に“春日市クローバープラザ”（福岡）にて、「第2回 被爆者運動継承の学習・交流会」が開催されました。

2012年11月に第1回を開催したこの学習・交流会の2回目になります。

長崎の二世の会からは5名、福岡・佐賀・諫早・熊本・鹿児島・島根・兵庫の二世の会、福岡の被爆者、非被爆者の団体から、約50名が参加しました。

まず、日本被団協中央相談所委員会委員 伊藤直子さんによる「被爆者運動から何を学ぶか」についての講演がありました。

伊藤さんは被爆者ではありませんが、1970年から日本被団協に事務局として勤務され、その後相談員として40年間ずっと被爆者運動に関わってこられました。

その経緯や日本被団協の活動の歴史を、わかりやすくお話しされました。

長く活動されてきた経験談には、二世の会の今後の方針や活動に、指針を与えてくれる内容もありました。

その後、参加者が4つのグループに分かれ、自己紹介を兼ねて自分が現在どのような活動をしたのか、これまでの被爆者運動について何を思うのかなどを話し、お互いの団体の活動や悩みについて意見交換を行いました。

伊藤さんからもアドバイスを頂き、充実した意見交換でした。

長崎県外で活動されている二世の方々や非被爆者の方々の思いや意見を、長崎の二世とは違った目線で聞くことが出来て、今後の活動にとっても参考になりました。

今回は、2日間にわたるものでしたが、今回は4時間弱と時間が短く、話が途中で切られた形になってしまい、十分に意見交換が出来ませんでした。

次回は、もっとゆっくり交流の場を設けてもらいたいと、思いました。

会終了後には、福岡・佐賀・長崎・諫早・熊本の二世の会によって結成された「九州ブロック被爆二世協議会準備会」の発足式があり、会長には福岡の南さんが任命されました。

この会を起点として、今後も、より中身のある九州での活動を期待します。

---

# 日本被団協「二世委員会」第2回会議報告

---

2月27日、日本被団協「二世委員会」第2回会議が東京で開催され、日本被団協の田中事務局長、中村二世委員長など被団協役員6名と、二世の委員6名（代表理事会で選出された東京、神奈川、広島、福岡、長崎、鹿児島の代表で構成）が参加しました。

二世委員会は日本被団協の中の専門委員会ですが、二世側としては主体的、積極的に会議の日程や議題を提起していくことを確認し、今後、幅広い地域からの二世委員の増員や専門部会への移行などを要望しました。

二世委員会が設置されてから2年になりますが、二世の全国交流会を行い、また厚労省、地元自治体へ二世独自の要求で要請書を作り、全国各地の二世が参加し要請を行うことができました。

しかし、二世の要求や解決すべき課題は多く、2013年10月に被団協で実施された「被爆二世の組織と活動の現状アンケート」の結果を踏まえ、二世委員会の今後の活動の柱について話し合いました。

1. 核兵器廃絶、日本被団協の被爆者運動、被爆体験の継承と、被爆者運動の歴史を学ぶ
2. 二世の実態調査、手帳取得、健診の充実、国の責任での健康管理・治療
3. 財政基盤の確立、全国的な二世の組織化を考える

日本被団協、二世委員会で詳細な内容の被爆二世のアンケートを作成し、全国的なアンケート調査として取り組めないか、今後、検討していきます。

また厚労省は10年おきに被爆者実態調査を実施しており、2015年はその年にあたるため、日本被団協では推進委員会を立ち上げ、子どもたちの状況、健康意識などを詳しく調査するよう、国、各自治体へ訴えていくことを決めました。

---

## 来年度もいろいろな企画に参加しませんか？

---

二世の会・長崎では、2014年度も色々な企画を考えています。

- 平和コンサート
- 被爆体験聞き取り
- 色々な視点からの学習会 . . . 等など

2015年の、被爆70年の節目の年へ向けて、ステップアップする企画ばかりです。

会員の皆様も振るって、参加・協力をお願いします。



連絡先はここ↓

メール：[hisaikyo2sei@yahoo.co.jp](mailto:hisaikyo2sei@yahoo.co.jp)

長崎市岡町 8-20 被災協気付  
長崎被災協・被爆二世の会・長崎  
☎095-844-0958